



# とびっくす No.64

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.jp/suigi/> )

## アカアマダイの種苗生産結果

### ～生産尾数は過去最高、形態異常魚はわずかに！～

水産技術センター（浅海グループ）では、県栽培漁業基本計画に基づいて平成 18 年度からアカアマダイの種苗生産技術開発に取り組んでいます。今年も 10 月 2、3 日の 2 日間、出雲市と共同で JF しまね平田支所、平田支所管内の延縄や一本釣り漁業者の皆さま、および松江水産事務所の協力をいただきながら親魚の確保を行い、得られた受精卵を用いて種苗生産を行いました。

そして、12 月 5 日で種苗生産が一段落、配合飼料のみで飼育する中間育成段階に移行しましたので、これまでの結果について概要を報告します。なお今年度は親魚の確保が不調でしたので、不足分を山口県外海栽培漁業センターから受精卵を分けていただきました。この紙面を借りてお礼申し上げます。



元気なアカアマダイを種苗生産できました！

#### 結果の概要

昨年度の種苗生産では、生残率については平成 18 年度以降で最高になりましたが、高い形態異常率（75%）が問題でした（図）。形態異常魚の出現率が高かった理由については、うきぶくろの形成（開鰓（かいひょう）といいます）が遅れたためである可能性が高く、速やかに開鰓させられるかどうかが形態異常魚の出現率を下げる鍵になると考えられました。

開鰓は、ふ化後 5～6 日目の仔魚（しぎょ）がうきぶくろに空気を取り込めるかどうかで決まるということが他県等の研



形態異常を確認しながら 1 尾ずつ取りあげる様子

究結果からある程度分かっていますが、どのようにすれば確実に取り込めるかは飼育条件により異なります。今年度は仔魚が空気を確実に取り込んで開鰓できるよう、ふ化後5～6日目を中心に次の二つを実施しました。

まず第一に仔魚が空気を取り込むのを水面の油膜がじゃまをすることが考えられるので、その要因を可能な限り排除しました。すなわち油膜の元になるようなものをできるだけ用いないこと—具体的には餌として供給するシオミズツボワムシの栄養強化時に脂質の多いものを使用しない—さらに、油膜を除去するための装置—具体的には油膜への空気の吹きつけや油膜の浮いた表層水を水槽表面から流出させる等—を設置することです。第二に全長2mm程度の小さな仔魚がうまく空気を取り込めるような工夫をする—具体的には通気を微弱にしたり、間欠的に通気したりする—ことです。

この二つの取り組みにより、7日目にはほぼすべての仔魚が開鰓し（昨年度はこの時点でほとんど開鰓していない）、その結果、昨年（H20）の形態異常率75%はもとより、全国的にみても最高水準といえる形態異常率2.2%（全水槽の平均値）を達成しました。またそれに伴って正常魚の生残尾数も昨年度の6,900尾から、31,900尾へと大幅に増加しました。来年度は今年度の結果を再確認しながら、さらに生産技術の安定化に向けた取り組みを実施したいと考えております。

なお生産したアカアマダイ稚魚は、一部は出雲市に配布、JFしまね平田支所の中間育成施設で3～4月まで飼育されたのち同管内で放流される予定です。また残りの種苗の多くは当センターで継続飼育を行い、出雲市地先を中心に放流する予定にしています。



図 浅海グループにおける形態異常魚、正常魚のこれまでの生産尾数

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1  
 TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079  
 ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>  
 E-mail: [suigi@pref.shimane.lg.jp](mailto:suigi@pref.shimane.lg.jp)